

改訂版の序

内視鏡の習得を目指す先生方に遠回りさせることなく、出来るだけ分かりやすく内視鏡技術を伝えたいとの思いから2005年10月に出版した本書も早5年余りが経過しました。消化器科を志す先生のみならず、研修医の先生や消化器科以外の先生方からも大変好評を頂きました。

しかし5年の月日の中で検査機器や技術の進歩・普及により、検査、診断、治療の方法や手技にも若干の変化が見られるようになってきました。そのような状況の変化に適応すべく今回、経鼻内視鏡、画像強調内視鏡（NBI, FICE）、治療内視鏡（ESD、胆膵領域）等の項目を加筆し、また新たな執筆者として山本栄篤先生を加えて5年ぶりに改訂することになりました。今回の改訂にあたって初版と同様に解剖を中心とした基礎知識に基づき、写真、イラスト、動画を多用しなるべく理論的に分かりやすく記述することに重点を置き、初学者の先生方にも理解しやすい内容になっていると自負しています。

内視鏡を学ぶ際には、内視鏡を自由自在に操作できる技術は必要不可欠ですが、それ以上に重要なことは、医師として社会人として内視鏡を習得する上での姿勢、被験者に対する態度であり、また内視鏡機器・疾患等の知識の基本を十分に理解し習得した上でやらなければなりません。間違った方法でやってもなかなか技術は進歩しませんので、良い師や本に出会い、良い方法論で技術を習得し、決して妥協することなく常に技術や知識の向上を目指していくことが大切なことだと考えています。2005年の出版の際の「守破離」という言葉をあとがきにかえて読者の方々へのメッセージとして託しました。その道を極めるための第一段階である「守」をしっかり習得し、さらに第二段階の「破」、第三段階の「離」と技術と知識を高めていくための一助としてこの本が活用されることを切に願っております。

最後に今回の改訂にあたり、企画を頂いた羊土社の嶋田達哉氏、筆の遅い我々の担当で苦勞された山村康高氏、付録DVD作成担当の熊谷諭氏、またこれまで多くの指導、協力、助力を頂いた先生方、コメディカルの方々、我々の多くの仲間たち、両親、家族に筆者一同、心から感謝申し上げます。

2010年4月

著者を代表して
長浜 隆司